

園児の「お通り」や「神楽」に笑顔広がる 第24回ふれあい東城まつり

10月22日、第24回ふれあい東城まつりが開催されました。メイン会場となった東城小学校グラウンドには、屋台や展示などのテントがずらりと並び、東城保育所の園児による伝統行事「お通り」が再現され、華やかなオープニングで幕をあげました。

山陽女学園高等部のバトンや中国スーパー雑技団の華麗な演技、大人顔負けの舞を披露する田森保育所の園児による「ちびっこ神楽」など、賑やかなステージになりました。「クイズ〇×に答えて賞品ゲット」には多くの方が参加され、そのうち上位16人が「げた飛ばし」への参加資格を得て記録を競い、会場は盛り上がりました。

21日には「ふれあいの夕べ」で銭太鼓、ダンス、カラオケなどが行われたほか、21日から23日までの3日間は、東城文化会館で書道、陶芸、生け花、ちぎり絵などの各種作品が展示されました。



瀬口侑希歌謡ショー



東城保育所による「お通り」

世界一の餅つきや 歌謡ショーで賑わう おいでん祭2006

9月30日・10月1日の2日間、総領健康福祉センター芝生広場をメイン会場に、「おいでん祭2006」が開催されました。

1日目の里山芸術展では、総領の小中学生の工作や書をはじめ、一般の各種作品を展示。2日目は自治振興区などによる各種バザーや健康コーナー、ふるさとステージが行われ、各種団体の発表や大泉逸郎さんと南かなこさんの歌謡ショーなどで盛り上がりました。また、この祭で恒例となった1石(米150kg)の餅を一度につく、亀谷の世界一の餅つきが行われ、つきたて餅の無料配布に行列ができました。



亀谷の世界一の餅つき

元気いっぱい子どもミュージカル ブラウン監督も応援に駆けつける

第7回庄原子どもミュージカルが10月22日、庄原市民会館で行われ、県北の子どもたち72人と大人10人が「オズの魔法使い」を公演しました。

これは、知恵と心と勇気とふるさとをテーマに、主人公のドロシーたちがオズ大王に「知恵と心と勇気」を授けてもらうために旅する物語。子どもたちの元気な歌や踊りで満員の観客を楽しませました。

このミュージカルは、子どもたちの「いい顔」がみたいと平成12年にスタートし、年1回公演を行っています。運営予算を捻出するため、実行委員のボランティアスタッフが、バザーやフリーマーケットなどを実施していますが、

今年は広島東洋カープもベース投げTシャツを寄贈するなど、支援に加わりました。応援に駆けつけたカープのブラウン監督は「とても楽しかった。この物語は信じていることがテーマ。カープの優勝を信じて一緒にがんばりたい」と話していました。



モーモー大行進

牛が主役のイベントに大行列 和牛の里・口和でモーモー祭

第10回モーモー祭りが10月7・8日の2日間、口和総合運動公園で行われ、約24,000人の来場者で賑わいました。

会場では、「モーモー大行進」や「牛と子どもの綱引き」など、牛が主役のイベントが行われ、この祭りの名物である「和牛の炭火焼きコーナー」では4,000パックの肉が完売し、和牛のもつ美味しさを多くの人が味わいました。

主催したモーモー祭実行委員会事務局は「和牛関係者の努力や多くのボランティアの皆さんのおかげで大成功。2年後も会場いっぱいの賑わいにしたい」と話していました。



焼肉を楽しむ来場者

比和の味覚・イベントを満喫 第14回比和やまびこ祭

10月22日、「比和の里、ひびけこの声、心意気」をテーマに、比和総合運動公園で、第14回比和やまびこ祭が開催されました。

会場では、各種イベントが行われ、比和中学校生徒による広島県指定無形民俗文化財「比和牛供養田植」に大きな拍手が送られ、恒例となっている「そば食い競争」では、必死に食べる選手たちに、「がんばれ!」「もっと速く食べて!」と多くの声援が上がっていました。

その他、太鼓の競演や小林幸子そっくりさんの加賀あすかショーなど、市内外から多くの団体が参加し、会場は笑顔と歓声に包まれました。

また、地元の特産市場や市民グループ、自治振興区などの出店者が新鮮な農産物や加工品、うどんやそば、比婆牛のもも丸焼きなどを販売し、来場者は比和の味覚も楽しんでいました。



加賀あすかショー



比和牛供養田植

各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

カメラレポート

いんこうしゅんはら



火山灰露頭見学会

全国から考古学研究者が集う 第23回中・四国旧石器文化談話会

9月23・24日の2日間、庄原市ふれあいセンターで、土器発明以前の「旧石器時代」を専門とする研究者が全国から集まって「第23回中・四国旧石器文化談話会」が開催されました。

この談話会は、文化財の有効活用に取り組むため市教育委員会が誘致したもので、7人の研究者による基調報告や討論が行われ、参加者は文化財の活用について学習しました。

現在、市内に堆積する「キビツチ」が、考古学者や火山灰学者から注目されはじめています。「キビツチ」とは、5万年以上前から2万年前ころにかけて、島根県の三瓶山が何回かの大噴火をおこしたときに飛来した軽石の地層を呼ぶ、この地方の方言です。

市内には、東城町の帝釈峽遺跡群をはじめ、合わせて7カ所の旧石器時代遺跡がありますが、将来、最初に降り積もったキビツチの「雲南降下火山灰」(5万年以上前)よりも下の地層から石器が見つければ、日本最古の人類遺跡という可能性を秘めています。このため、2日目に行われた尾引町内の火山灰露頭見学会は、研究者の熱気で大いに盛り上がりました。



左から3人目が大野さん

元Jリーガーによるサッカー教室 トップアスリートから技術を学ぶ

9月24日、比和総合運動公園で、Jリーグ鹿島アントラーズなどで活躍した大野俊三さんによるサッカー教室が行われました。

これは、子どもたちにスポーツの楽しさを体験してもらおうと、市教育委員会が企画。市内の小・中学生100人が参加しました。

ボールと友だちになろうとボールを正確に蹴り返す基本練習やPK合戦、ミニゲームなどを行い、大野さんは「大きな声を出す、ボールから目を離さない、動きに緩急をつける、ボールをしっかり止めてゴールを狙うことが大切」などと指導しました。子どもたちは、大野さんの卓越した技術に触れ、大きな刺激を受けていました。

シビルさんのやさしい英会話

総領で毎週火曜日開催

8月にカナダから総領町へ新任の英語指導助手として来られたリトウィラー・シビルさんが、9月26日から毎週火曜日に総領文化会館で英会話教室を開催しています。

初回はパソコンを使ってクイズ形式で自己紹介を行うなど、初心者でも安心して参加できるやさしい英会話が好評でした。毎回シビルさんの様々なアイデアで行われ、今後はお菓子作りなども予定されています。

初心者はもちろん総領地域以外の方も随時参加できます。詳しくは総領支所総領生涯学習係(☎0824-88-3067)へお問い合わせください。



黒滝と呼ばれる岩盤に大文字草が自生

ダイヤモンドソウ

吾妻山に自生する大文字草を訪ねる やまなみ大学「あずま四季めぐり鑑賞会」

10月1日、休暇村吾妻山と地元「越原みこと会」が、やまなみ大学の講座で吾妻山の黒滝に自生する貴重な花「大文字草」を訪ねるイベントを開催しました。

大文字草は、湿気のある岩盤に自生し、花びらが「大」の字に見えることから大文字草と名づけられた花。

雨の中、市内外から参加した30人は雨具に身を包み、休暇村吾妻山を出発。比和自然科学博物館の中村真吾館長や地元の皆さんが黒滝までの約1時間、吾妻山の植物について解説しました。参加者は目的地に着き、しっかりと濡れた黒滝に咲いている大文字草の花を見つけると、可憐で愛らしく咲く光景にしばらく見とれていました。



花びらが「大」の字に見える大文字草

過去最多の 29団体が熱戦 しょうばら桜花杯 空手道大会が 10回記念

しょうばら桜花杯空手道大会が10月1日、庄原市総合体育館で開催されました。

平成8年に庄原市で行われた国体空手道競技会の成功を記念して始まったこの大会は、今年第10回の記念大会を迎え、中国地方4県から29団体354人が参加しました。

競技は、小学生から中学生が各クラスに分かれ、組手の部、形の部で熱戦を繰り広げ、昨年に続き庄原市空手道スポーツ少年団が総合の部で準優勝に輝きました。

主な成績

組手団体戦 中学校男子の部 優勝 庄原市空手道スポーツ少年団
中学校女子の部 優勝 庄原市空手道スポーツ少年団
組手個人戦 中学校女子の部 優勝 加藤巴穂(庄原)
中学校男子の部 準優勝 保田洋紀(庄原)
小学校5・6年生女子の部 第3位 福原愛美(庄原)
形団体戦 中学校の部 第3位 庄原市空手道スポーツ少年団



芸術・文化の秋、 市民の力作が集う 庄原市美術展覧会

第2回庄原市美術展覧会が10月15日から20日と、25日から29日までの2回に分け、田園文化センターで開催され、市民から応募があった作品212点が展示されました。

日本画、洋画、写真、彫刻、工芸、書の6部門に応募があり、各部門で大賞と奨励賞が選ばれました。審査員は「個性的な作品が見られ楽しませてくれる、大作は見ごたえがあり、レベルが高い」などと評価。会場には連日多くの人が来場し、「立派な作品がたくさんあってびっくり」と感心していました。



前期展(日本画、洋画、写真)に583人が来場

和太鼓の競演 第5回TAIKO交流会

9月23日、ウイル西城の2階ホールで「第5回TAIKO交流会」が開催されました。

市内から口和備神太鼓・本村葦嶽太鼓・高要害太鼓・比和吾妻太鼓・上谷不老仙太鼓・総領響心太鼓・庄原永江太鼓・西城川子供太鼓・西城川太鼓の9団体が参加。小学生から60歳代まで、総勢70人の演奏者が、団体ごとに趣向を凝らした衣装に身を包み、地域の自然や文化を題材にした曲の演奏で聴衆を魅了しました。

この催しは、庄原市内の各地域で演奏活動をしてい



西城川太鼓

る和太鼓の団体が、交流を通して技術を磨き、親睦を深めることを目的に始まり、各地域持ち回りで開催されています。

出演者の皆さんが実行委員会を組織し、手づくりで準備を進めてきましたが、多くの人に演奏を聞いてもらいたいとの思いから入場は無料。日本人の心を表した和太鼓は幅広い年齢層に人気で、西城地域内外から約200人の観客でウイルホールは満席になりました。

総合的な学習で生きる力を身につける 西城中が「しあわせ館」でボランティア活動

9月20日、西城中学校3年生が西城保健福祉総合センター「しあわせ館」でボランティア活動を行いました。

3年生は、総合的な学習の一環として、「人として生きる力を身につける」ことをテーマに、6月からしあわせ館を訪れ、ワークショップや福祉活動体験を行い、学習を深めています。今回は、たくさんのボランティアグループが集う西城地域の福祉の拠点、しあわせ館で様々なボランティア活動をしました。

地域の木工名人の指導で柵や看板を作ったり、花壇を作り花を植えたり、清掃活動などに取り組んだほか、折り紙などの壁飾りやダンボールのアーチなどで室内をにぎやかに彩りました。

後日、3年生全員からしあわせ館に届いた手紙には「しっかり協力すること、声を掛け合って助け合うこと、一生懸命最後までやり抜くことを学びました」など、一人ひとりの思いがこめられていました。



花を植える生徒たち



フラダンスのステージ

市民アーティスト発表のステージ 第10回生涯学習フェスティバル

10月21日～23日の3日間、西城地域の住民が日頃の生涯学習の成果を発表する「生涯学習フェスティバル」が開催されました。

生涯学習フェスティバルは、西城公民館での作品展示「第40回庄原市西城町美展」、ウイルホールでの芸能舞台「第10回であいとふれあいフェア」、支所庁舎前での「お茶席」の3会場で行われ、多くの来場者で賑わいました。

町美展には、絵画・工芸・手芸などの各部門に、児童・生徒の作品273点を含む530点が出品。であいとふれあいフェアでは、歌、踊り、楽器演奏などのほか、3B体操、フラダンスなど、今年度始まった公民館教室の発表も加わって18団体が出演しました。

各団体の出品者、出演者が実行委員会をつくり、公民館を中心に準備を進めてきました。生涯学習フェスティバルの意義について公民館館長の牧原正治さんは、「目標を持って学び、市民自らが企画運営に携わることで、生涯学習への意欲が増し、裾野が広がります。このイベントが新しい地域文化の創造につながると期待しています」と話していました。

地域の職業にふれ、 将来の夢に向かって一歩 高野中2年生が職場体験学習

9月27・28日の両日、高野中学校2年生22人が、働くことの意義を理解し、自己の個性・適正に対する認識などを深めることを目的として、高野町内の10事業所で職場体験学習を行いました。

日頃、家庭でのお手伝いとは違い、接客や商品の仕分け、洗車作業、保育の補助、消防署での消防器具の扱いなど、多様な分野を体験。高野支所では、保健師業務のほか、防災無線放送の録音や、獣害を防止する電気柵の設置完了写真の撮影などをしました。高野支所での体験を終えた繁田達成くんと泉円香さんは、「市役所の仕事が幅広い事を実感できた。将来の夢を実現するために今をがんばりたい」などの感想が聞かれました。

高野中学校2年生は、6月の農作業体験、今回の職場体験に続き、11月3日には高野の産品を直接仕入れ、市内のイベントで販売体験学習をしました。



電気柵の設置完了写真を撮る泉さん

高野地域に待望の老人福祉施設オープン 特別養護老人ホーム「故郷高野」開所

9月29日、社会福祉法人東輝会による特別養護老人ホーム「故郷高野」が、高野町新市に開所しました。

この施設は、高野の豊かな自然に囲まれて、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるユニット形式を特徴として、特別養護老人ホーム30床とショートステイ10床の利用定員となっています。外観は景観に調和する木造風平屋建てで、自然光を取り込めるようガラスを多用すると共に、内部には木材を使い、入居者に優しい明るい安らぎの空間が保たれた構造となっています。

旧高野町からの待望事業として計画されたこの施設は、老人福祉の拠点とともに、雇用の場としても地域から期待されています。



旧新市小学校跡地に建設

東城に子育て支援の拠点 児童健全育成施設「こどもの館」オープン

10月2日、旧東城保育所施設の一部を改築し、子育て支援の拠点となる「こどもの館」がオープンしました。

この施設には、「東城放課後児童クラブ」と「子育て支援センター」、「おもちゃ図書館たんぽぽ」があり、子育て家庭や地域の方々との交流の場、子どもの遊び場として利用できます。また、子育て支援センターには、畳の部屋やベビーベッド、乳児用のおもちゃや絵本などを備え、保健師が実施する妊婦教室や乳幼児健診なども行われます。

オープン以来、「帰りました」とランドセルを揺らしながら帰ってくる小学生や赤ちゃんを連れてお母さんの姿が毎日見られ、利用者からは「子どもが毎日のように行きたがりです」「子育てが楽しくなりました」といった声が聞かれています。

開館時間など詳しいことは、こどもの館 ☎08477-2-0160へお問い合わせください。



放課後児童クラブで勉強する子どもたち